令和7年度第1回北杜市図書館協議会会議録

1. 会議名：令和7年度第1回北杜市図書館協議会
2. 開催日時：令和7年5月21日（水）午後3時～4時30分
3. 開催場所：金田一春彦記念図書館 SV ホール
4. 出席者：協議会委員 佐野 恭子／佐野 隆／仁科 恭子／飯田 久美子／
河合 美知子／白倉 美奈子／内藤 雅人／蕪澤 ふみ子
事務局 中澤 徹也(中央図書館長)
河野 明美／大塚 美智子(中央図書館総務担当)
5. 欠席委員：なし
6. 委嘱状交付
7. 教育長あいさつ
8. 役員選出（会長・副会長）
9. 会長あいさつ
10. 議事録署名委員指名：佐野 恭子委員 佐野 隆委員
11. 議 事
 - (1) 図書館協議会（年間計画）について
 - (2) 第四次北杜市子ども読書活動推進計画について
 - (3) 図書館の予算・主な事業について
 - (4) 図書館利用者による図書館利用に関する意見交換会について
 - (5) 令和6年度北杜市図書館事業報告について
12. 公開・非公開の別：公開
13. 傍聴人の数：3人

議 事

(1) 図書館協議会（年間計画）について

事務局：資料1に基づき、図書館協議会の設置、役割等、北杜市図書館条例について説明。

今年度は、4回の協議会を計画。各回の主な内容は、資料1のとおり。その内の1回は図書館視察を計画。1案としては、市内図書館を2館程度視察、2案としては、甲府、蕪崎方面、3案としては、長野県富士見町図書館。

【質疑】

委員：白州町在住で県境のため、富士見町にはよく出かけることがある。北杜市とはまた違う街なので、ぜひ富士見町に行ってみてはどうか。

委員：以前、八ヶ岳定住自立圏の会議に出席したが、なかなか交流ができないことが残念だと思っていたため、図書館視察をきっかけに交流が深まればいいのではないかと思い、ぜひ富士見町図書館を訪問したい。

事務局：今年度、北杜市図書館は、図書館システムのパソコン総入れ替えを予定している。入れ替えに併せ、セルフ貸し出しを導入する予定。富士見町図書館でこのシステムが導入されている

ため、富士見町図書館でいかがか。

委員：事務局から、富士見町には具体的にセルフ貸し出し機が設置されていて、視察することの意義があるのではという目的が示されたので、私も富士見町図書館方面で良いと思う。

事務局：事務局で調整ということであれば、長野方面の富士見町図書館を第1候補でお願いしたいかがか。

委員：異議なし。

議事1については以上。

(2) 第四次北杜市子ども読書活動推進計画について

事務局：資料2に基づき、子ども読書活動推進計画の概要を説明し、進捗状況アンケート結果を報告。

事務局：資料の訂正あり。1ページ下の実施回数は年3回以上を年13回以上に訂正する。

【質疑】

委員：先日、小淵沢図書館でイベントがあり、読書ボランティアとして参加した。今回、参加者が少なかったのは、時期的に各種大会が多い時期ではないかということはあるが、気になったのは、小学校へチラシで宣伝するとき、今はメールで保護者に連絡をするシステムになっているとのこと。今度イベントがあるというお知らせが、いろいろなチラシと一緒にメールで入って来るらしいが、お母さんが興味を持って自分で見ようと思わないと、なかなかチラシをゆっくり手に取って見る機会がないということを知った。

以前は紙のお便りを冷蔵庫に貼って「今度行こうね。」ということにしていたと思うが、学校の方からのメール連絡となると、なかなか集客が難しいと思った。子供の数も減っているのでも、参加してもらえるような、PRの方法を工夫していかないと難しいということを感じた。また、参加してくれたお母さんに話を聞いたところ、小さい子がいると、お母さんが子どもに騒がれることが怖くて連れて来られず、今日初めて参加したという方がいて、お母さん方もそういう機会に出たいとは思っていても、今はネットで叩かれたりするということもあり、そうなったら困るということを感じている雰囲気が、以前より強いのではということを感じた。昔は子どもが騒いでも当たり前だと思ってくれる人もいたが、今はお母さん方が、必要以上に人の目を気にしてしまう部分があって、イベントに参加することに気後れしてしまうと感じた。この報告書を見ても、様々なイベントを行っているが、この場に出てきてもらう工夫を考えていくことが必要だと思う。

議長：イベントへのPRの工夫、参加しやすい母親の状況などについて伺ったが、関連で何かあるか。

委員：図書館の職員が読み聞かせに来てくれたとき、「最近、親子で来る人が少なくなりました。」という話を聞いたが、静まり返ったところに子どもを連れて行こうとするのはハードルが高いと親御さんたちは思っている。お母さん方も、今は子どもが1歳になると職場復帰する方が多く、子どもが保育園に入園する時期が早い。いざ保育園に入ってしまうと、平日のおは

なし会は行けない。乳幼児向けのおはなし会は平日に多く、土日は上の年齢層で、小学生向けのおはなし会を設定されているところが多いと思う。参加するタイミングがないのではと感じているところである。

委員：北杜市が合併して20年になるのに、未だに白州町の図書館ではボランティアも白州のボランティアがおはなし会をしている。例えば明野のボランティアが白州に来ておはなし会をするなど、ボランティア活動をもう少し広域に考えて行うような形にしていってほしいのではないかと感じる。未だにかつての各町村の付き合いしかしてないということがとても残念に思う。

議長：いくつかの意見をまとめると、今後PRを工夫していくこと、参加しやすい場の設定をしていくこと、北杜市で行っている活動が、町を超えて読み聞かせグループが交流していくこと、朝読をもっと充実させていくことなどを考えながら、今後進めていくことでよいか。

事務局：北杜市図書館ボランティアは、地域密着型で、所属の地域で活動している方がほとんどだが、2年ほど前から須玉町のボランティア団体が武川町で読み聞かせをしてくれるなど交流も出てきた。地域のボランティアの方から声を上げていただき、広域で活動できることを伝えていただけるとありがたい。また、先ほどの朝読書については、3ページの朝読書の時間の推進で実施したかしないかについて、②読み聞かせ、ブックトークの充実で実施内容の内訳があり、北杜市図書館職員や図書館ボランティアが行っていることを細かく聞いている。朝読書の時間は読み聞かせがほとんどだが、こちらの方に反映されているという理解で見たい。

事務局：PRの件については、学校側で教員の負担軽減ということもあり、今まで紙で配布していたが、デジタル化することによって効率的になった。委員の意見と逆パターンで、子供が紙をもらってきたが、カバンの中に入ったままで親が知らないということもある。しかし、イベントなどは親に興味がないと子供に伝わらないこともある。データのメリットは市内全学校に周知できるため、町の枠を超え、広くPRすることができる。その中で反応が無いときは、各学校にお願いし、紙を配布していただくこともある。また、イベントで子供を集客する場合、多少騒いだりするのは問題ない。図書館も静かに本を読みたい方とのエリア分けのようなところも含めて、今後の課題として持っている。

議長：朝読の読み聞かせについて、勤務している学校では週2回のうち1回は金曜日に読み聞かせボランティアの方たちに読んでもらっているが、その時間はとても貴重で、本の選書の仕方や本の広がり方は教員とは違う。子どもたちが今まで自分に興味がなかったことや知らなかったことに興味を持ち、読んで広がっていく場になっていて、朝読の時間の読み聞かせは貴重だと長年思っていた。これからも大切にしていきたい事業だと思う。

議事2については以上。

(3) 図書館の予算・主な事業について

事務局：資料3-1、3-2に基づき、令和7年度の図書館の予算、事業計画について概要を説明。

【質疑】

委員：予算の方だが、図書館運営費用の1億4千万のうち、人件費の額と人数を教えてください。

事務局：職員の人数は47人。人件費は、明野から武川までの合計となるため後ほど伝える。

委員：事業計画について、北杜市にはいくつかホールがあるので、北杜市図書館で大きなイベントを毎年するようなことができないか。他の自治体は図書館が少ないからかもしれないが、北杜市は各館にばかり振られ、面白みがないことを耳にするので、検討してもらいたい。

事務局：北杜市では、大きなイベントとして生涯学習課でホールを使ったイベントを開催している。図書館で開催するイベントの場合、割と地域に根ざした形というイメージがある。しかし、ホールもあるため、大きなイベントをやりたい気持ちはもちろんある。著名人の講演会が開催できればとも思う。

委員：有名人に依頼するというのではなく、北杜市にみんながいて、そのみんながここに集まってきて何かお祭りをするイメージ。その先頭に立つのは行政しかできないと思う。高いお金を出して有名な人を呼ぶことは今まで十分やってきているので、もっとみんなが集まって何か出来るようなイベントを計画いくと面白いのではないか。

事務局：意見を参考に、研究していきたいと思う。

委員：北杜市は、図書館に限らずイベントが多いことは感じている。保育園でもそうだったが、これは親子で参加してもらいたいと思っても、なかなか参加してもらえないことがある。しかし、保育園側からも後押しをするような形で言葉をかけてみると、行ってみたら良かったと言う保護者もいた。また、私は本を読むのは好きだが、なかなか図書館には行けなかった。日々の中で、図書館に行くのはどこでも行き易いといいなという思いがあったが、あまり足を踏み入れなかった図書館に行ってみた。足を運んだことによってその図書館の違い、良さがわかったが、初心者のときはハードルが高く、行きにくいと思っていた。多分私のような気持ちの人もあると思う。まずは足を運んでもらったら、図書館はいつでも利用できるし、空き時間があつたら涼みながら新聞を読むだけでもよいという気軽さを実感をしてもらえるといいのではないかと感じている。

議長：利用しやすい雰囲気作りや、気軽に足を運べるような方策を皆で考えていきたい。

事務局：雰囲気作りということは、日頃から気にかけて、職員にも意識するように伝えている。

図書館に来るきっかけ作りとして、イベントや、興味を引くようなことは試行錯誤している状況なので、気軽には行きにくい方の目線で見えて考えていきたい。

また、先ほどの人件費の件について、回答は1億2,771万円である。

議事3については以上。

(4) 図書館利用者による図書館利用に関する意見交換会について

事務局：資料4に基づき、経緯、開催等について説明。

【質疑】

委員：意見交換会の参加者は、どのように募集するのか。

事務局：広報や各図書館でチラシによる PR をして、ある程度の期間をとった中で募集をかけていきたい。あまりにも大勢で意見が多く出ても、1 人何分も喋れないような状況になってしまうことから、参加人数はこの場所を使うのであれば 20 人程度の予定。

抽選の場合、どのくらい申し込みがあったのかがわかるが、先着順の場合、定員になるとその後は断ってしまうため、どのくらい希望があったのかは不明となる。申し込み方法も考えながら、検討していきたい。

委員：利用者の方の声を聞くということもとても大事だと思うが、基本的にこの意見交換会の方針は、ここに書かれたものでいいと思う。参加者の募集は、抽選がいいのではないかと思う。参加者が特定の団体に偏ってしまうことがないようにすることも大事。また、先ほど図書館に入りにくい印象だったという話があったが、なぜそんな印象を受けたのかを詳しくレポートいただきたい。利用しない人の声を聞きたい。前々から話している通り、そういう機会がうまく作れないものか。案外利用している人の声は、いろいろな形で入ってくるが、昨今の図書館利用者の少子高齢化とともに、利用が伸び悩んでいる。状況を考えると、利用していない人たちは、なぜ利用しないのか。本が嫌いだというわけではないと思う。そういう人たちにアクセスできるような図書館の在り様をこれから先どう考えていくのかというときに、利用しない人の声も聞いてみるなど、何か工夫してみたいと思う。

議事 4 については以上。

事務局：今日ネウボラ推進課主催のベビー教室に 0～4 ヶ月の赤ちゃんとお母さん、お父さんが来て、赤ちゃんに対するいろいろなことを保健師さんが教えてくれる事業があった。そこに今回から図書館が参加し、なかなか図書館に来てもらうことが大変な親子のために、図書館から本を持って出向き、そこで貸し出しをすることになり、「ちっちゃいとしょかん とどけ～る」という事業を始めた。出張図書館のようなイメージ。今回は本を 60 冊程度用意した。お母さんのリラックス本、離乳食の本、手作りスタイの本や、子どもが楽しめる絵本を貸し出した。おそらく今まで利用していなかった方、図書館に足が向かなかった方もいると思うが、事業の開拓で、一つの方法としてこちらから攻めの姿勢を持ちたい。

委員：そのような素晴らしい活動をされているなら、参加者から簡単なアンケートを取って、なぜ普段来られないのか、データ蓄積していくと、何か見えるものがあるかもしれない。

議長：利用しない人の考えは、学校の本を読まない子供たちにどうしたら読ませることができだろうかということにも繋がると思う。今日のような事業をしていくことが、本を手取るきっかけを作る、そのような機会をなるべくたくさんこちらが提示することが、少しでも本好きにしていく一つの方法だと思うので、とてもいい事業だと思う。

(5) 令和 6 年度北杜市図書館事業報告について

事務局より資料 5 に基づき説明。

委員：質問、意見は特になし。

議事 5 については以上。

(6) その他

事務局：今回、資料を事前に送ることができず申し訳なかった。次回以降、事前に送る努力をしていきたい。

委員：資料は、先ほどのアンケートについてもクロス集計が行われ、課題が整理され、具体的な改善策なども考えられるような資料分析だと思う。全体あるいは各図書館で行われている事業についても細かく出していただいたので、私達も、もう一度見直して膨らませられるものはないか、合体してより魅力のあるものにできないか、そういうことを考えるととてもいい資料をいただいたと思う。

委員：イベントはこれからもキーワードになってくるのではないかという話が出たかと思うが、昨年12月15日にこども図書館まつりに行ったが、とても盛り上がりだった。マジックと音楽と絵本のコンサートということで、静かな読み聞かせではなくて、本当に歌あり音楽ありのとても賑やかな会で、親御さんたちも0歳から小学生、中学生の子どもまで幅広く参加されていて、すごいイベントだったと思っている。ふれあい方法は、もっと賑やかでもいいというスタートのところ、そういったものがあると、親御さんたちも参加しやすく良い一歩を踏み出しやすいのではないかということはこの会に参加して感じた。ぜひまた、今後ともこういった会が企画されたら良いと思っている。

議長：私も参加し、みんなで参加する楽しい会でよかったと思うので、先ほどの意見のように、大人も子供もみんなで参加できるような催しができたら素敵だと思う。

委員：中学校と図書館がどのように連携できるかと考えながら話を伺った。国語の授業でもポップを作ったり、ビブリオバトルをしたり、おすすめの本を紹介するような授業があるので、学校図書館だけでなく、公立の図書館との連携もできるといいと思う。中学校の国語科も更に努力していかなければと感じた。

委員：他には質疑なし。

議事6については以上。

閉 会